

はくさんさん

ドクダミ

第 118 号令和 3 年夏号

伊豆市 法住寺 発行

もう何年も前のこと、檀家さんの火葬で川崎市北部斎苑に行った。当時の田舎の火葬場は山間にありひなびていたので、近代的で豪華な建物と設備に目を見張った。二階の廊下を歩いて行くと、外の斜面いっぱいには白い花が群生していてきれいだった。何の花だろう、目を凝らすと驚いたことにドクダミだった。ドクダミは根を深くはり繁殖力旺盛、とんでもなく悪い雑草だ。でもこの時、初めてきれいだなあと思った。

*

寿量の杜の道端にドクダミが生え始めて、見る間に大きくなりチョットした群生になった

「寿量の祈り 敬意と感謝」

大自然 ありがとうございます。
社会の皆さん ありがとうございます。
ご先祖さま、家族の皆さん ありがとうございます。

合掌

合掌

ドクダミの花



白い花はドクダミではありませんよ、サツキですよ



*

先日、川崎市の同じ火葬場でお勤めをした。ドクダミの花の季節だったので、あの斜面のことを思い出していた。二階に上がって見ると、そこはきれいに刈られていた。チョット残念なような気もしたが、それはそれでサツパリしていきいだった。ドクダミの花もよし、刈るもよし、薬草にするもよし、柔軟な見方をしたいものだと思った。

*

た。茎は太くスクツと伸びる姿は悪くない、何時ぞやの川崎の火葬場のことを思い出し刈らないでおくことにした。そんなある日、杜の掃除をしているとスクツと車が止まり、老年のご婦人が降りてドクダミを抜き始めた。すぐ近くに私が居るのに黙って取っている。特に育てたわけでもないのに変な気分だ。近くまで行って声をかけた、「こんにちば」。「ああこのドクダミ、よく生えてるからさあ、前から目をつけていたさあ、干して飲もうかと思つてさあ」。あまりに平気なのだ、悪気など全くない、ドクダミを取って何が悪い、そんな感じ。なるほど、ドクダミってそういうものかと思つた。

以前は頭デッカチで観念的で壁にぶつかることも多く、悩んだり苦しんだりしてきた。それが自分なりにも柔軟な見方が出来るようになり、悩むこともなくなってきたのは何故か。思い当たるのは、何処に向かつて生きているか、何のために生きているのかという方向が確かなものになってきたからだと思う。毎朝のお勤めごとに、真正面のご本尊さまに向かつていると祈る清々しさ、ありがたさが満ちてくる。確かなものに向かつているから、確かなものを持つているから、柔軟になれるのだと想っている。

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

慈しむ まなざし

今年も変わらず春は訪れて、人々はその花の下で桜を愛で、慈しんだ。同時にその桜の花もまるで私たちを慈しんで咲いているかの様に見えたのでした。

話かわって人間は人間を慈しむことができるであろうか。自分に對して攻撃的だったり(と思ひ込んで)、暴言を吐いたり感じが悪かったりすると、夜も眠れない位くやしかったり、人を嫌いになることもあるかもしれない。でも一晩たったり時間がたって、その人の立場になってみると不思議に「なるほど」と思えることもある。「慈しむ」

ってその人の立場に立ってその人に想いを馳せることでもあると思う。

さて時は流れて今にとどまらない結末もあると思う

と、人生は絵巻物の様です。ですが仏さまはすべてをふかんしてすべてをみそなわされている様にも思えます。私も今を嘆いているばかりでなく、次なる展開に精進したいと思ひます。何よりも「慈しみのまなざし」を持つて個々の人々を見つめてみたいと思う。仏さまのふかんした様な気持ちで大きな眼を持つて慈しみのまなざしを持つて生きてみたいと思う。そうして各々が慈しむまなざしを持つていたならば社会全体も心温かなものになるのではないだろうか。

「慈母観音の如き眼差し沙羅の雨(修愚)」

前のお寺のお母さんが逝去した折に夏椿(沙羅)の白い花が咲いていて伊東修護持会長様より戴いた一句です。深く心にしみる忘れえぬ一句となっています。

第二墓地 ヒノキ伐採

第二墓地西斜面のヒノキを3列程伐採しました。立派に成長したのですが、お墓に被さるようになってきたこと、ヒノキの枯れ葉は細かくて墓石の目地に入り込む等あって、役員会で検討しての作業でした。

このヒノキは昭和30年代の初めに植林されたと思います。それまで雑木はマキや炭として広く燃料になっていましたが、狩野川台風後の頃からプロパンガスが普及し、また国の造林計画もあって全国的にヒノキや杉が植林されました。

当時の檀家さん方が植林し下刈りし育ててくれました。今回の第二墓地はすごい急斜面、絶壁に近い感じですが。この急斜面の雑木を伐採、当時はチェーンソー等なくのこぎりや斧などで倒しての植林です。それからヒノキが下草より背が伸びるまで何年も下刈りして、ハチに刺されたりもしながら、50年後にはこの木が売れて大した金が入る、そんな夢を見



本堂西側の夏椿



1本1本ワイヤーをかけて



伐採後のヒノキ林

て苦勞して下さいました。それから約20年後、昭和58年から第二墓地の造成が3回に渡り行われました。

今回の伐採は森林組合にお願いしましたが、大変な作業でした。足場の悪い急斜面、真下の墓石に気を配りながら一本一本、ワイヤーをかけて慎重に切っていきます。思ったより一瞬早く木が倒れてきて、サツと身をおかわすが足元悪く、急斜面を転げたり。

伐採したヒノキ約60本は、現場にねかしたままで、誠にもったいないことです。ただ運び出すには人の手しかなく、墓石があるので転がし落とすことはできません。運び出したとして一本は数千円と聞きました。半世紀前にあんなにご苦勞して下さいました。皆さんを思うと涙ぐんでしまいました。誠に申し訳ありません。

墓地は明るくなりさわやかな風が吹いています、ご先祖さま方はこれで良し、とうなずいて下さっていると思います。

草刈り足場づくり

墓地の草刈りは足場が悪く、ケがしないように慎重に作業してもらっています。今回、護持会役員さんが足場の道を作り直した

第一墓地 足場づくり



り、市販の階段を試験的に取り付け様子をみたりしてくれました。これから第二墓地まで徐々に進めていく予定です。

中伊豆温泉病院 移転

中伊豆温泉病院が清水地区の県道沿い、お

寺の入口に移転してきます。現在、土木工事が槌音高く行われていて、2023年度中の開院予定です。敷地約3.5ヘクタール、224床の総合病院、リウマチ治療は知られています。また温泉を使ったリハビリテーションも好評で京浜方面からの入

院患者さんも多いです。

お知らせ

お盆の棚経

今年の棚経は、従来通り各家にお伺いし、オシウリヨウサン(精霊棚)にご回向させてもらいたいと思います。コロナの関係がありますので①訪問時間は5分程度、②お茶等の用意はなし ③住職は膝を痛めていますので、チョットした腰掛、椅子等を用意して頂けると助かります。

お施餓鬼

お施餓鬼は8月3日午後3時から行います。コロナの関係で皆さんを代表して役員さんにご焼香してもらいます。尚、新盆関係者、十二日講、祈願会の皆さんも都合のつく方はご参加下さい。

お塔婆は出来れば施餓鬼終了後、午後4時以降でお願いし、お墓にお供えて盆送りとしてください。ご都合で前もつてとか、後日とかでも良いので、宜しくお願い致します。

寺子屋、今年も中止

寺子屋はやりたいのですが、コロナの現状から中止します。来年は行いたいものです。

新病院完成予想図

Rendering of new hospital



七面山登詣 11月13、14日(土、日)

洋明上人と一緒に詣りしましょう。



またねー

人はいつか亡くなる。これは遙か昔から変わらない自然のこと。このことをお釈迦さまは「諸行無常 是生滅法」と説かれました。とはいえ、いざその時を迎えるとやはり私たちは人間である。悲しく寂しく喪失感に苛まれる。まして大切な方を亡くされたご家族の気持ちは察したくとも察し切れないものがある。

*

先日、ある方の葬送の儀を執り行わせて頂いた。その方をAさんと呼ばせてもらいます。Aさんは私よりちょっと年上で本当によく慕わせて頂いた方。人を引き付ける魅力があり、笑顔の素敵な真っ直ぐな気持ちの持ち主。人

の為にと犠牲を払える正義感のある本当に優しい方でした。その優しさは、実は辛さや苦しみを知っているからこそにじみ出てくる、人の痛みがわかるAさんならではの深い優しさであった。僧侶として「これで大丈夫かな?」と不安に思う時、Aさんはいつも笑顔で「そうだね」の一言。その笑顔と一言に何度勇気や安心を頂いたことか。本当に笑顔でよく私を受け止めて下さった。一緒に何かできることが嬉しいと思える方でした。

*

Aさんとは大きな思い出がある。Aさんは、数年前に亡くなられた大好きなお婆ちゃんがいきました。とても信心の厚いお婆ちゃんでした。そのお婆ちゃんの四十九日忌をおえた後、Aさんと一緒にお婆ちゃんの足跡をたどろうと、身延山、七面山にお詣り。Aさんはお婆ちゃんの写真を懐に大事に入れて登詣、本堂ではお婆ちゃんの写真を膝に載せて一緒にお詣りされたのです。「本当に良いお詣りが出来た。ありがとう」と嬉しそうな笑顔は今でも鮮明に覚えています。よく「あの人の人生は輝いていた」と言うが、Aさんは「人生をよく輝かせた」方であった。

*

今は亡き真間山弘法寺の前貫首、石野貫首猊下は亡くなられる前に、自らの死期を悟られ事務所の机にこんなメモを残された。「さようなら。お元気で。またねー」。亡くなったから「またねー」なのである。亡くなったから終わり、目に見えないから居ないではない。亡くなくてもその後また繋がっているからこそ「またねー」のメモ。私は石野猊下の「またねー」は法華経の教えであり、お題目に感じ

*

今回、Aさんにはいつもの素敵な笑顔で「ありがとう。またねー」と言ってもらえるようにと思いつきながら葬儀をお勤めさせて頂いた。一人の僧侶としてAさんを魂の故郷であるご本尊さまのもとに送らせて頂いたつもりである。しかし、本当にちゃんと勤められたのだろうか?その答は自分の「またねー」の時にAさんに聞いてみよう。

さて、今年も「お帰りなさい。ご先祖さま」のお盆の季節。ご先祖さまをお迎えし、気持ちを形に表してお喜び頂いたなら「今年もありがとう。またねー」と言ってもらえると嬉しいものである。

御志納金「三月〜六月」

| | | |
|-----|---------|--------|
| 西 | 佐藤 昌子 殿 | 夫君葬儀 砌 |
| 川崎市 | 山下 泰 殿 | 尊母葬儀 砌 |
| 清水 | 小塚 俊 殿 | 尊母葬儀 謝 |
| 西伊豆 | 古賀眞澄美 殿 | 尊母葬儀 砌 |